

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和4年度 第2回佐渡市児童館運営懇談会	
開催日時	令和5年2月22日(水) 午前10時～10時46分	
場 所	佐渡市役所会議室棟 第2会議室	
議 題	1 令和4年度佐渡市児童館事業経過報告について 2 今後の方向性について	
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開	
出席者	参 加 者 児童館職員 事 務 局	有識者 5名 子ども若者課長 市橋 法子 ちのわの家館長 石見 薫 畑野児童館館長 渡邊 則子 子ども若者課子育て支援係調査員 須田 大輔 子ども若者課子育て支援係主事 末武 柚真
会議資料	別紙のとおり	
傍聴人の数	0人	
備 考		

会議の概要(発言の要旨)	
発言者	議題・発言・結果等
事務局 須田	<p>議題1 令和4年度佐渡市児童館事業経過報告について 別紙のとおり。</p> <p>議題2 今後の方向性について 【前回までのまとめ】 <加茂地区></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童館ちのわの家は、周辺の地盤沈下により建物の傾斜が進行しており、建物自体にも歪みが発生し、児童が利用する施設として危険度が高く、事業継続が困難となっている。 ・加茂小学校長寿命化改良工事に合わせて、国の方針でもある学校内の空きスペースで開設することになった。加茂小学校長寿命化改良工事のスケジュールでは、令和4年度末(令和5年3月)に仮設校舎が完成予定のため、令和5年4月からの学童開設を予定している。 ・令和4年4月8日開催のちのわファミリークラブ役員会で、新旧役員8名に対し、加茂児童クラブの開設とちのわの家の廃止について説明。また、令和4年6月16日開催の加茂小学校長寿命化改良事業に関する

説明会で、加茂小学校保護者および教職員に加茂児童クラブの開設について説明し、一定の理解が得られたと認識している。

<畑野地区>

- ・畑野児童館は、平成 30 年度に屋根の全面改修が終了しており、建物として当面利用可能なため、児童館機能を維持しながら、学童化に向けて準備を進めている。
- ・学童の整備は、国の補助金を活用しながら計画的に行う必要がある。
- ・畑野児童館の利用児童については、長期休暇など、他地区の学童を利用しているケースがあり、畑野地区も学童利用のニーズがある。
- ・令和 5 年度は、新穂児童クラブに長期休暇で 11 名、真野児童クラブに土曜・長期休暇合わせて 6 名、合計 17 名から申請があった。
- ・畑野児童館の柔道場は、地区の柔道教室や畑野中学校が利用していることもあり、教育委員会と協議しながら進めている。

【変更点】

<加茂地区>

- ・令和 4 年 12 月 9 日に加茂児童クラブ入会募集説明会を開催し、加茂小学校保護者および入学予定児童保護者 22 名に対し、児童館と児童クラブの違いや入会申請方法について説明した。
- ・令和 4 年 12 月 12 日から令和 5 年 1 月 27 日までの間、令和 5 年度の児童クラブ利用希望者を募集したところ、加茂児童クラブの定員 40 名に対し 67 名からの申請があった。
- ・令和 5 年 3 月上旬に入会許可・不許可証を発送できるよう、申請書の審査を進めている。
- ・令和 5 年 1 月に、ちのわファミリークラブ様から加茂児童クラブへ備品や児童用図書一式の寄付の申し出があり、ありがたく受納することにした。市報 3 月号に掲載予定。

【今後の予定】

<加茂地区>

- ・加茂児童クラブの開設にあたって、非常に多くの申請があったため、申請書を精査しているところだが、ある程度の調整が必要になる。
- ・4 月以降スムーズに児童クラブへ移行ができるよう、引き続き学校と調整を進めていく。
- ・仮設校舎完成後の令和 5 年 3 月下旬に加茂児童クラブへの引っ越しを予定している。
- ・令和 5 年 3 月末をもって、ちのわの家は閉館。既存校舎の改築は令和 6 年夏頃の完成を目指している。

<畑野地区>

<p>事務局 須田</p> <p>座長 A 氏 B 氏</p> <p>市橋課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き学童化に向けて、関係者との調整を進めていく。 <p>・事務局の説明について、ご質問やご意見があればお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童館の役割や意味は大事なものである。児童館は高校生まで使えるので、高校生の居場所として使うとか、高校生がコミュニティを作り、自分たちにはこういう居場所があったんだと地域への愛情や誇りが育まれる可能性が十分にあると思っている。児童館の役割や意味をもう一度大事にして運営していくのであれば、児童館は残しておくことも大事かと思う。ただし、現在の児童館の事業の内容からすると、畑野も児童クラブに移行した方がいいと思う。現在、どのように教育委員会と連携して話が進んでいるのか具体的に聞きたい。柔道の場所は一応確保されているが、ほとんど使っていない。子どもたちの遊戯スペースになっている。スピード感をもって対応した方がいいのではないかな。 ・児童館の良さは、非常に幅広い年齢が使えるというのは承知している。ただ、両津のちのわの家、畑野児童館についても、利用者は中学生くらいまでというところが現状。高校生の居場所になりえていないと承知しているので、今の児童館のやり方であれば、学童化するべきだろうと考えている。一方で、18歳までの子どもたちの居場所の確保も必要だと考えている。佐渡になかなかそういった場所がないため、今後慎重に考えていく必要がある。エリアとしての整備など、いろいろな視点での整備を進めていく必要がある。畑野については、発足当時、旧畑野町が文武両道を掲げて児童館と柔道場を併設した経緯があるため、柔道場は使える間は使っていきたい。ただ、畳の劣化も著しく、中学生が使うには危険な部分も出てきている。教育委員会とは、新穂の武道館は畳を入れ替えてとても良くなったので、送迎の時間的なロスを調整し、子ども達が必要なカリキュラムを学べるようにしてもらえないかと協議をしている。地元の柔道教室についても、人数が少なくなっているため、旧市町村ごとではなく、新穂と畑野が一緒になるなど1つのグループでやっていく形にしないとスポーツ教室も続いていかないのも現状ですので、社会教育担当とも話をしながら進めている。 <p>児童館の在り方については、私たち行政からすると、児童館の整備には国からの補助金がなく、市の一般財源を使わなければいけないということで、なかなか整備が進んでこなかった。子どもの居場所については貧困なども言われているが、地区の子どもが地区で育つために必要な環境という視点で進めていく。税金を有効活用するような計画を立てて進めていく必要がある。</p> <p>児童クラブについては、スピード感をもっていかないとクラブ化は進まないし、長期休みのみしか使えないというように保護者の方にも負担をかけている。佐渡市内でサービスが平等にできるような形を早速にとっていきたい。調整すべき点はまだ多いので、令和5、6年度あたりでうまく整備ができればと思っている。</p>
---	--

B 氏	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの居場所というのは本当に大事だと思っている。うちの学校では、子どもたちに地域への愛着を持ってもらいたいと様々なコミュニティを打ち込んでいる。児童館に本当に高校生が来ないのか、wi-fi や学習スペースを整えれば、高校生の居場所になるかもしれない。具体的には、音楽がやりたい人を募って、駐車場の一角でライブコンサートをやったら来るのではないかと。まずはやってみることが大事。ぜひ佐渡の若者に佐渡を好きになってもらいたい。佐渡に誇りをもって羽ばたいてほしいし、また佐渡に戻ってきてほしいと思っている。
市橋課長	<ul style="list-style-type: none"> 今の高校生の学びの場、学習スペースがないので困っているという話を聞いたので、ニーズもあると思う。 市としては、佐和田地区を子育て拠点エリアとして整備をしていきたいということで進めている。新しい庁舎が完成すると、佐和田にある議会の機能が新庁舎へ移り、佐和田行政サービスセンターの2階と3階が空く。佐渡高校の生徒が、勉強するスペースがないとか、図書館はあるが手狭で勉強できないことがあるので、佐和田行政サービスセンターの空きスペースで作れないかと検討を進めている。旧地区単位で考えていくべきことと、全島エリアで考えていくことが必要であると思う。佐和田地区の拠点化に向けて進めているところですので、ご意見として参考にさせていただきます。
事務局 須田	<p>【児童館運営懇談会について】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで児童館の運営を適正かつ円滑に行うにあたり、委員の皆様からご意見、ご助言いただきながら、この運営懇談会を開催して参りました。令和5年度以降、市内の児童館が畑野児童館1館となることから、本児童館運営懇談会については廃止の方向で検討している。児童館運営懇談会を廃止した後も、畑野小学校、畑野児童館については、引き続き意見交換をしながら進めて参りたいと考えているが、委員の皆様のご意見をお聞かせいただきたい。
市橋課長	<ul style="list-style-type: none"> ちのわの家が閉館するというので、畑野のみになるので、畑野エリアでの意見交換会という形で継続していきたいと思っている。児童クラブ化に向けてのお話や、保護者のご意見などもお伺いしながら進めていくような形にして、懇談会形式で開催するという事は一旦廃止にしたいと考えているが、皆様方のご意見があればお伺いしたい。
渡邊館長	<ul style="list-style-type: none"> 課長のご意見でよろしいと思う。
B 氏	<ul style="list-style-type: none"> 畑野児童館は閉じる方向で動くという話があったが、児童館の役割や意味を考えたときに、それもひとつの選択肢として大事にするのだったら、存続でもよいと思うが、市としてはもう閉じるという方向で動いていくということか。
市橋課長	<ul style="list-style-type: none"> 結果としてはそうです。これまで畑野地区には児童クラブがなく、長期休みのみ子どもを別のクラブに預けている状況があった。児童クラブのニーズはどうか、児童館があれば良いというご意見が多いのか、以前ア

市橋課長	<p>ンケートを取ったが、やはり地域にクラブがあり、長期休みも平日も預けられると良いというニーズが多かった。児童館の基本的な考え方は否定しないが、畑野地区には児童クラブが必要だろう。児童館と児童クラブを両方置くことも以前議論したが、この子は児童館利用、この子は児童クラブ利用と同じところで遊んでいるのに料金がかかる人とかからない人がある。そういったこともかなり煩雑になる。児童クラブ化をしていくという方向でいかがでしょうかと、この懇談会でもお諮りしている。児童クラブ化に向けて進もうということで、現在はその方向で進めている。</p> <p>特にご意見がなければ、この3月末にちのわの家が閉館すると同時に、今回のこの懇談会については要綱を廃止し、懇談会は今後閉会させていただくということで進めさせていただきたい。</p>
事務局 須田	<p>【放課後児童クラブの運營業務委託について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、佐渡市では現在市内 12 か所において放課後児童クラブを運営しているが、近年の登録児童の増加や利用者ニーズの多様化に伴い、児童支援員の人材確保や資質向上、均一なサービス提供等の面において課題が生じている。他自治体で業務実績を有する民間事業者の運営ノウハウを活用することで、安定した人材確保やサービスの向上を図ることを目的に、運營業務の民間委託について検討を進めている。 <p>委託後も現在の市の運営形態と大きく変更する点はないが、受託者と市が業務を分担します。また、任用中の児童支援員は、本人の意向を確認したうえで、民間事業者が面接を実施し、雇用を決定するため、児童クラブによっては職員が変更する場合がある。</p> <p>民間委託導入の方向性について説明するとともに、ご意見を伺う場として、放課後児童クラブの運營業務委託に関する説明会を令和 5 年 1 月 23 日から 2 月 6 日までの間、市内 9 か所で説明会を開催した。</p> <p>説明会の質疑では、民間委託のメリットは何かといった質問があった。市としては、運営ノウハウを持つ事業者に委託することで、子どもたちが色々な体験を通じて有意義に放課後を過ごすことができること。また、民間独自の研修カリキュラムで支援員の資質向上にも繋がると説明した。</p>
市橋課長	<ul style="list-style-type: none"> ・補足説明になりますが、ここ数年、佐渡島内の業者にいろいろあたってきた。バスの運営だけはどうか、全体の業務運営はどうか。行革の観点を含めていろいろあたってきたが、やはり市内 12 か所を一気に受けるという業者はなかなか無かった。大型免許が必要なバスもあるので、バス会社、タクシー業界、それから民間で緑ナンバーを持っているようなホテルにお話をしたが、閑散期であれば良い、観光のオンシーズンには対応できないと言われた。毎日のことなのでそれは困ると、なんとか人を回してもらえないかという話もした。4、5年ずっとやってきたが、

市橋課長	<p>島内には担える業者がないため、島外まで範囲を広げるしかないということで、新潟県内でいくつか委託している自治体があったので、そこに担当が視察に行った。民間業者だけでなく、NPO 法人や保護者会が運営しているところがあった。運営自体も、保護者会に運営していただくと年々親御さんたちも子どもたちも変わるが、うまく続いている仕組みができているところがあった。でも、今それを佐渡で一から始めるというのは、子どもも少なくなっている中で難しいということで、民間事業者に委託をするという選択を協議し、今年度に入って具体的なところを議会にも説明しながら進めてきた。</p>
B 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブ民間業務委託保護者説明会《報告》の資料裏面に、その他『民間委託後も放課後子ども教室との連携は可能ですか。』とあるが、実際児童クラブと放課後子ども教室はどのような連携がなされていて、どのような効果があるのかお聞きしたい。
市橋課長	<ul style="list-style-type: none"> ・正直言って、効果というものは上がっているとは言えないと感じている。スクールバスが来るまでの数十分の時間で、放課後子ども教室は毎日やっているわけではないので、なかなか連携をとって成果を上げるのは難しいだろう。スタッフが重複していないので、なかなか職員間での連携も取れているようで取れていない。でも、子どもは同じなので、連携すべき事業だろう。佐渡市は、放課後子ども教室は社会教育課が担当しているが、真野や羽茂など、いろいろなところで活動はしている。その方のお話を聞いて、そういうことができると良いね、支援員と話してそういう取り組みができるかやってみてと話をした事例はあるが、本当にそれは連携と言えるまでのことなのだろうか。毎回、毎月、連携ができているわけではない。やはり気付いたときに話をしてやれているというだけのことに終わってしまっているというのが佐渡の現状だと思う。ただ、児童クラブの支援員は会計年度任用職員という形で、児童クラブ以外の業務で賃金が発生する場合は、兼業の願いが必要で行政的な手続きが必要になる。そうすると、同じ勤務時間に同じお金をもらえないので、どのようにやっていけるのか線引きが必要になり、やれないこともあった。ただ、今後は民間運営になるので、運営自体に民間と子ども教室のスタッフが組んでくれればやりやすくなることはあるだろうと期待している。ただ、本当にその地区を知っている今の支援員がそのまま移行してくれれば良いなと思っているが、ご意向によって変わる場合も当然あるので、そこを私たちがうまく繋ぎながら、子どもたちが楽しい放課後を過ごせるような形を、一緒になってやっていくことは当面の間は必要だろう。先生がおっしゃるような効果という部分では、今はうまく連携できているとは思っていない。ただ、必要な連携事業であろうという認識はある。今後、民間に移るにあたって、民間の行政ではない範囲の広さの中でやっていただければ、是非取り組んでいただこうようにお願いをしていきたい。
B 氏	<ul style="list-style-type: none"> ・連携というと、私も具体的にビジョンが描けるわけではない。うちの学

<p>B 氏</p> <p>市橋課長</p>	<p>校も今年度放課後子ども教室を導入した。月に2回やっている。私の思い描いたスケッチは、子どもたちは16時まで放課後子ども教室で活動し、そのあと児童館に行く。あるいは、迎えに来てもらいそのまま帰る。子どもたちの安全の確保を徹底してやっている。もし、児童クラブと放課後子ども教室が連携、協働して活動を行っていくのであれば、学校が16時45分までなので、16時45分から19時までの間は学校を開放する。ただし、その時は児童クラブの職員が学校に来て、放課後子ども教室の延長で活動するとか、そういうことはイメージできる。そういう連携も子ども達にとっては魅力的な活動。社会教育課との連携が必要になってくるので、子ども達のためにどういう連携がより良いのか求めていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会と子ども若者課の業務は、協働して一緒に考えていかなければいけないことがたくさんある。関わる大人が違うだけで子どもたちは同じ。子どもたちのためになるような事業を進めていくというのが私たちの仕事。そこは今のご指摘も含めて、また教育委員会とも話を進めながら、民間になったときにより広い視野でやっていただけるような民間の活力に期待している。そのうちの一事業として、効果としてお示しできるように頑張っていく。
<p>C 氏</p> <p>市橋課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・加茂小学校の放課後子ども教室に関わっているが、今の話を聞いて、やる意味があるのかなという気がする。結果的に、児童館など子どもたちを見てもらう施設に行くという児童も多いので、何のために子ども教室があるのだろう。社会教育課のやっていることが無駄に見える。もう少し効率的なやり方ができるように、そのお金を他のところに使う形をもっと考えた方が良くと思う。やめろとは言わないが、放課後子ども教室を違った形でできる方法を考えた方が良く。 ・放課後子ども教室だと、児童クラブを使う子も使わない子も使える。そういう場所が定期的にあることによって、クラブを使わない子どもでも放課後を楽しく過ごせる。羽茂は地域のボランティアがすごく入っていて、祖父母と暮らしていない子どもたちが多世代交流できるメリットがある。だが、行政の悪いところで、縦割りになっている。子どもは同じなのだから、一体的にできるようなカリキュラムにしていくことが必要だと思っている。子どもたちのためにということを念頭におきながら、2年くらい社会教育課とは話をしているが、そのお金をうまく違う部分に子どもたちに還元できるような方法はあるかというご助言をいただいたので、協議の内容にさせていただく。
<p>渡邊館長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私は新聞報道で放課後子ども教室を見た。社会教育課は、具体的に何をやっているのか。
<p>市橋課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育課の放課後子ども教室には、地域のリーダーや地域支援員と言われる人がいる。私は羽茂を見たが、羽茂は、来てくれたお年寄りが子どもたちにいろんな遊びを教えてくれていた。佐渡ってこんなことがある、羽茂ってこんな良いところがあるとその場では教えていた。キャリ

市橋課長	ア教育という佐渡市が目指す部分のひとつとして地域を知るところで、こういうこともやっているのだなと思った。でも、地域によってばらばらだと聞いている。畑野は見に行ったことがないのでわからないが、おそらく地域のリーダーがいて、保護者の方や地域の方がいろいろなことを子どもたちのための事業として実施している。でも、20分か30分くらいですよ。
B氏	<ul style="list-style-type: none"> ・うちは1時間やっています。羽茂は非常に力のあるコーディネーターがいて、地域学校協働活動のもとで放課後子ども教室は行われている。地域住民が子どもたちのために、そして、子ども達が遊んだり学んだりすることによって、地域住民の活力になるというWIN-WINの活動になっている。ちなみに畑野は、キッズイングリッシュというものを、地域住民と英語が堪能なコーディネーターがALTの先生の学校に来る曜日に合わせて行っている。非常に多くの子どもたちが参加している。羽茂は毎月内容を変えてイベントのようにしているが、それだと畑野ではなかなか持続しにくい。我々は持続可能なキッズイングリッシュをやっている。
市橋課長	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターと学校との話し合いで内容を決めるのか。それとも、コーディネーターが中心になって内容を決めているのか。
B氏	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターの話を聞いて、社会教育課の方に伝えて申請している。
C氏	<ul style="list-style-type: none"> ・学校側の要望と合わせて、コーディネーターも地域の方の誰かを選んで動いているのが加茂小学校の強み。昔の遊びをやるときには、この人をお願いするなど。それは子ども教室とは別の時間帯にやっている。いろいろなことをいろいろな時間帯にやっている。
市橋課長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との話し合いでコーディネーターが内容を決める場合と、コーディネーターがやりたいことを決める場合と、地区によって違うと思う。
渡邊館長	<ul style="list-style-type: none"> ・畑野小学校も2月から始めた。コーディネーターも一生懸命な方で、児童館に来てくれて、月2回実施するので終わったら子ども達を児童館に来させて良いか、名簿も作る必要があるかと聞かれたが、児童館は来る人を受け入れるだけだから、学校の子どもの教室の予定さえわかれば、細かく報告する必要はないと話した。
市橋課長	<ul style="list-style-type: none"> ・他の地区でもいろいろな取り組みがある。羽茂は毎月いろいろ変えているから、地域の人が集まってもらえる時とそうでない時があると言っていた。地域によって色が違う。
渡邊館長	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年ではないのか。
市橋課長	<ul style="list-style-type: none"> ・羽茂は、私が行った時には4年生まで来ていた。5、6年生はいなかった。
渡邊館長	<ul style="list-style-type: none"> ・授業が終わってからですよ。
市橋課長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうです。スクールバスが来るまでの間ということで、20分か30分ほどしかできていなかった。
C氏	<ul style="list-style-type: none"> ・曜日を変えて、対象学年を変えるやり方でやっていくのも良い。
市橋課長	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちのためになるような事業として組み立てられたものだと思います。

市橋課長	う。でも、国は地域のことをよくわからず組み立てているので、それを地域がうまく利用することが必要。でも、佐渡ではなかなか連携ができていない。それを、今後民間で幅広くやっていただけると良いなと思っている。
座長 A 氏	・また気が付いたことがあれば、ヒントになるので幅広く意見を教えていただきたい。
市橋課長	・PR になるが、佐和田児童クラブで、佐和田エリアの子育て拠点のエリア化に向けた整備の方向性についてのご意見を伺いたく、子育て世代の方、保育園、小学校、子育て支援センターを利用される方々にご案内をしてお集りいただいて、保育ルーム、遊戯室もあるので遊ばせながら、保護者の方がお話を聞いて意見をいただけるような場所を作りたいということで、2月26日の14時から15時に設定している。保護者の中で、こんなものがあるらしいと周知いただけるとありがたい。
D 氏	・佐和田地区で、佐渡の木を使ったすべり台があると聞いたが、そういうものがあるのか。
事務局 須田	・農林中央金庫の富山支店から寄付をいただき、佐渡の木材を使った、すべり台やトンネルがついた大型の遊具が佐和田児童クラブの遊戯室に設置されました。先日は約170人の利用者があり、かなり賑わっていた様子です。
D 氏	・定休日はあるのか。
事務局 須田	・児童クラブの遊戯室を一般開放しているので、児童クラブの利用がない日曜日と祝日に利用できます。利用料は無料。市のホームページにも写真を掲載しているので、ご確認いただきたい。
市橋課長	・佐渡産材を使って、設計や設置に向けては、伝統文化と環境福祉の専門学校の大工修行をしている学生が作ってくださった。非常に良いもののできているので、是非遊びに来てほしい。
座長 A 氏	・意見や要望などがあれば事務局と連絡を取り合うこととして、当懇談会を終了する。